

平成から令和へ、新しい時代への期待が膨らむ季節になりました。遅咲きのサクラ、花桃、連翹(レンギョウ)が美しさを競う様に咲き誇っています。こうした景色の中で生活できる東白川村はまさに桃源郷だと感じるのは私だけでしょうか。そんな素晴らしい季節に保育園の入園式、小中学校の入学式が行われ、ピカピカの新入園児と新 1 年生が元気に登園、登校してくれました。今年度は、保育園に 12 人、小学校に 10 人、中学校に 16 人が新しく入りました。子ども達の人数は少ないですが、この子達は村の宝であり希望であると常々思っており、PTA 総会でも保護者の皆様と意思を一つにしながら支援していくことをお約束しました。

新茶の季節。

霜害の無いことを祈りながら、今年度の重要な施策の一つである“白川茶の生産から流通までの改革”を目指した事業を進めております。昨年度の事業で試作しましたワインボトルに詰めた極上の一品が完成しました。

名付けて「MIYOSHI Heisei 30」です。

茶業振興会長でもあり、飛騨美濃特産名人の安江美好さんのお名前からネーミングしてあります。一芯一葉で手摘みした茶葉を、地元の茶師が火入れし、その茶葉を 3 日間かけてじっくりと水出しで抽出、添加物なしで「非加熱濾過除菌」という特殊技術で作上げた一品です。



今年は限定 30 本しか試作しておらず、皆さんに飲んでいただくのはまだ先になりますが、白川茶のトップに位置する商品として紹介し、営業に活かしてまいります。

先日、中京村人会で試飲していただいたところ、一口含んで「何これ!？」という喚声が上がりました。こうしたイメージ戦略と併せて、産地の茶の製造から販売までの思い切った構造改革を関係団体の皆様と協議し、実施してまいります。

東白川村立村 130 周年記念事業の準備が始まりました。まずはロゴマークです。応募総数 78 点の中から選んだロゴマークは東白川村を良く表していると思います。

今後、缶バッジやクリアファイルなどのグッズも製作し、立村記念ムードの盛り上げに活用してまいります。

令和元年 5 月 1 日

東白川村長今井俊郎

